

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大谷場小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	全体的には基礎的・基本的な知識・技能の定着が図れた。今後も個別に必要な支援を講じていく必要がある。また、「ドリルパーク」等個別に蓄積されたデータをさらに効果的に活かす方法を検討していきたい。国語では、漢字の定着はみられたが、主語・述語の関係の理解に課題があるので、「言葉の特徴や使い方に関する事項」を重点的に指導していきたい。また、算数では単位の理解や計算式の意味の理解等に課題がみられることから、習熟度別学習を積極的に取り入れ、少人数で個別最適な学びが行えるような環境を整えたい。そして、児童の主体的な学びを引き出すために、問題意識を高めたり、課題を見出したりする支援の工夫を考え実践したり、児童一人ひとりに合わせた個別最適な学びのさらなる充実を図ってきたい。
思考・判断・表現	概ね目標を達成することができている。国語では、「読むこと」の領域に関して全国学力・学習状況調査でもさいたま市学習状況調査でも今年度の活動の成果がみられた。引き続き読書に力を入れて文章を読む活動を増やすとともに、文章から要点を読み取ったり、自分の考えをまとめたりする活動を重点的に行っていきたい。また、算数では協動的な活動を通じて、相手意識をもって適切な表現で考えを書き表し、自信をもって主体的に相手に伝えられるような機会を多く取り入れた授業を実践してきたい。そして、今後も児童がのびのびと安心して学習に取り組む環境をつくるために、自分の思いや考えを表現する活動の充実を図るとともに、互いの思いや考えを認め合う活動を取り入れた授業を実践してきたい。

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	【学習上の課題】 基礎的・基本的な知識・技能の定着に、個人差がみられる。 【指導上の課題】 児童が反復・習熟に取り組む時間の設定が不十分である。	⇒ 算数では、ITを効果的に取り入れて指導を行ったり、習熟度別学習を積極的に取り入れて少人数で学習を行ったり、個別最適な学びが行えるような環境を整える。【単元に1回以上】 また、「ドリルパーク」等個別に蓄積されたデータを効果的に活用しながら、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組めるようにする。【週に2度の実施】
思考・判断・表現	【学習上の課題】 自分の考えをまとめたり、進んで発信したりすることに意欲のない場面がみられる。 【指導上の課題】 子どもたちが安心して、主体的に活動できる環境を整えることに関して不十分である。	⇒ 協動的な活動を通して、相手意識をもって適切な表現で考えを書き表し、自信をもって相手に伝えられるような機会を多く取り入れた授業を実践していく。【学習状況調査の「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいきたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が80%以上】 児童一人ひとりが、自分の頑張りを素直に認め、他者の頑張りを見つけて認め合える授業を展開していく。【全教員による研究授業の実施】

全国学力・学習状況調査
<小6・中3>(4月~5月)

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能	A	年間を通して、算数を中心に複数の教職員で児童の指導・支援にあたることができた。そして、週に2回設定している「朝算数」の時間や授業の始めや終わりに「ドリルパーク」等個別に蓄積されたデータを効果的に活用しながら、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組む時間を確保し、実行することができた。また、授業アンケートを活用しながら個別のデータを教職員が把握するよう努めた。その成果として、令和6年度全国学力・学習状況調査、令和6年度さいたま市学習状況調査共に、同一集団の経年比較においても上回る教科が多かった。
思考・判断・表現	B	年間を通して、どの教職員も、相手意識をもって適切な表現で考えを書き表し、自信をもって相手に伝えられるような機会を多く取り入れた授業を実践することができた。その結果、令和6年度さいたま市学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいきたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が5・6年生共に95%前後となり、目標の80%を大きく上回った。また、学校課題研修の一環として、道徳の学習指導を基に、子どもたちが安心して主体的に活動できる環境を整えることに努めたが、「全教員による研究授業」は行うことができなかった。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	令和6年度全国学力・学習状況調査(国語・算数)の「知識・技能」において、全国平均と比較し、正答率は国語と算数ともに上回った。特に国語の「正しい漢字の使い方」についてや、算数の計算問題、数量の関係を探る問題などでは、全国平均の正答率を大きく上回った。個々に応じた必要な基礎・基本の反復学習を進めてきた成果であるといえる。一方、算数における「速さの意味」について理解しているかの問題の正答率が、他の問題に比べて低かった。日常生活を絡めながら、活用できる知識・技能を習得させられるような授業展開を行っていくよう努めていく。また、より一層、朝のパワーアップタイムを活用したり習熟度別学習を行ったりしながら、児童一人ひとりに合った問題を反復し、習熟していくような活動を継続していく。
思考・判断・表現	令和6年度全国学力・学習状況調査(国語・算数)の「思考・判断・表現」において、全国平均と比較し、正答率は国語と算数とどちらも上回った。特に、昨年度の課題であった「読むこと」の領域に関する正答率が高く、読書に力を入れて文章を読む活動を増やすとともに、文章から要点を読み取ったり、自分の考えをまとめたりする活動を重点的に行ってきた成果であるといえる。「書くこと」の領域は他の問題に比べて低めなので、文章から要点を読み取ったり、自分の考えを限られた文字数でまとめたりする活動を重視していく必要がある。算数では、体積を求める問題が他の問題より正答率が低かった。「知識・技能」の観点の時と同じように、日常生活を絡めながら、活用できる知識・技能を習得させられるような授業展開を行っていくよう努めていく。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	令和6年度さいたま市学習状況調査の「知識・技能」において、国語と算数は、どちらもさいたま市の平均を上回り、同一集団の経年比較においても、令和5年度の結果を上回っているものが多くあった。特に漢字の使い方を問われる「言葉の特徴や使い方」に関する事項についてや、算数の「数と計算」の領域において、さいたま市の平均正答率を上回っていた。個々に応じた必要な基礎・基本の反復学習を進めてきた成果である。一方で、算数において「図形」の領域について課題がみられた。平面図形だけでなく立体図形の具体物を授業で使用したり、ICTを使ったりしながら、特徴や定義を捉え理解を深められるような活動を取り入れていく。
思考・判断・表現	令和6年度さいたま市学習状況調査の「思考・判断・表現」において、国語と算数は、どちらもさいたま市の平均を上回った。また、「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答が95%を超えていた。児童が主体的に学習に取り組む中で「協動的な学び」の充実が図られていた結果であると考えられる。一方で、国語の「書くこと」の領域は他の問題に比べて点数が低めであったので、文章から要点を読み取ったり、自分の考えを限られた文字数でまとめたりする活動を重視していくとともに、その考えや思いを友達に進んで表現する活動の充実を図っていく必要がある。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	A	算数を中心に複数の教職員で児童の指導・支援にあたることのできた。また、週に複数回、「ドリルパーク」等個別に蓄積されたデータを効果的に活用しながら、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組むことができた。引き続き個別最適な学びが行えるような環境を整えていく。	個別のデータを教職員が把握するとともに、児童が確認する時間を設定するなど、自身の学習状況を踏まえ見直しをもって学ぶことができるようにする。【単元に複数回実施】
思考・判断・表現	B	どの教職員も、相手意識をもって適切な表現で考えを書き表し、自信をもって相手に伝えられるような機会を多く取り入れた授業を実践するよう努めた。全教員による研究授業は、2学期に実施する予定である。自尊感情を一層高めたいとともに、児童一人ひとりのよさを生かした個別最適な授業を行っていく。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)